



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成25年12月25日



津軽海峡ブランド博



ゆるキャラ達がお出迎え

20期連続で増収増益を達成する同社の特徴は、お客様に食を通じてスーパーを楽しんでもらいたいというコンセプトのもと、店舗ごとに趣向を凝らしたディスプレイを展開。また、切り身や刺身などの生鮮品の加工品や惣菜部門も充実。それらの加工・調理のほとんどを店内で行い、お客様の様々な要望にも即時に応え、高付加価値化を実現させ、売上を伸ばしている。



国内経済視察会

11月22日(金)～24日(日)の3日間、青森産業会館において「津軽海峡ブランド博」が開催された。「津軽海峡ブランド博」とは、平成27年度に迫った北海道新幹線開業(新青森・新函館)に向けて、青森市を中心とした東青地域と函館市を中心とした道南地域の物産を共同でPRする展示商談会。青森産業会館を運営する青森市産業振興財団や自治体、商工団体などで行う実行委員会

が主催し、初開催となったブランド博には、青森から95団体、道南から19団体が出展し、青函の自慢の逸品を売り込んでいる。青森の出展者はリンゴやニンニク、ホタテなどの加工品や工芸品などを販売。道南のブースには、イカめしや松前漬などの海産物や乳製品を使った洋菓子などが並び、それぞれの特色が表れていた。開催初日の午前中には、県内外から50名ほどの小売店等

のバイヤーを招き、個別の商談の場を設置。その場で取引が成立するなど、かなり有意義な商談会となっていた。午後からは一般にも公開され、3日間で2万人もの人が集めた。特に土日は会場内が人で溢れ、各ブース前には多くの人がだかりで買い物するのでも一苦労。ステージイベントでは、ねぶた囃子などの郷土芸能やご当地ゆるキャラが会場を盛り上げた。また、飲食店も多数出展しており、津軽ラーメンやモツ煮込み、かに汁、各種串焼きなどで、来場者の舌とお腹を満足させた。「津軽海峡ブランド博」は北海道新幹線開業の平成27年度まで毎年開催される予定になつており、津軽海峡ブランドの確立に向け、PR及び販路拡大に取り組む。

組合では、県外の経済状況や他の卸団地の活動状況などを視察する国内経済視察会を11月28日(木)から30日(土)までの3日間行い、山口県下関市の卸団地や福岡県の注目企業などを視察した。下関問屋センター協同組合は、昭和40年設立と、全国でも有数の歴史ある卸団地で、まもなく創立50周年を迎える。中国自動車道下関インターチェンジから車で3分、山陽新幹線・山陽本線新下関駅から車で6分の好立地により、現在の空き区画はゼロ。団地内には赤十字血液センターや携帯ショップ、コンビニもあり、全て組合が賃貸し、収益を上げている。

また、福岡県福岡市に本社を置く梱包・輸送会社のトランスパック(株)も視察。同社では「5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)」と「利益管理」を結びつける仕組みを構築し、収益改善に取り組んでいる。5S活動を徹底して実践している同社では備品1つ1つの置く場所が決められ、事務所や作業所内は驚くほどキレイに整理整頓されていた。また、当活動により、社内にも良い意味での緊張感をもたらされ、全社一丸となる体制も作られた。その効果は全社員へ限界利益を周知する際にも発揮され、社員一人一人がコスト意識を強く持つようになり、全社員一丸となって業績アップに取り組む組織が構築されている。そのほか視察団一行は、門司港や長門市の金子みすゞ記念館などを視察した。

青函の逸品をPRする 津軽海峡ブランド博が開催

下関問屋センターなど視察 国内経済視察会

問屋町防災ミニガイドの作成と承認

第7回理事会

問屋町防災ミニガイドの作成やパソコンリサイクル回収実験事業の実施などを審議する第7回理事会が11月25日(月)、問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは、問屋町緑のボランティア隊の活動や初めて開催したハロウィンパーティー、今回で3回目となるインフルエンザ集団予防接種等について報告を行った。主な案件審議は次のとおり
案件一 環境対策委員会から

インフルエンザ集団予防接種

2日間で368名が受診

組合では11月14日(木)・21日(木)の2日間、問屋町会館2階大会議室においてインフルエンザ集団予防接種を実施した。今年で3回目となる同事業は、組合員及び隣接する青森市中央卸売市場の従業員を合わせ、368名が受診した。

予防接種に協力いただいたのは医療法人成田あつしクリニック。今年度は同院の申し出により、受診料を従来の3千円から2千円に減額。これにより受診者数がこれまでの4倍近くにまで増加、実施日も1日増やした。

問屋町会館で実施する予防接種は、「職場に近く、待ち時

の意見について

問屋町内除排雪作業の委託業者や合同清掃の表彰、美化緑化カレンダーの作成、パソコンリサイクル回収実験事業の実施が承認された。
案件二 卸売業団地機能向上支援事業特別委員会からの意見について

問屋町防災ミニガイドの作成が承認された。
案件三 第47回通常総会の日程等について
案件四 平成25年度第8回理事会の日程等について
理事会終了後には、青森問屋町配送(株)の第2回取締役会も開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。

第27回通常総会を開催

青森県流通団地連絡協議会

青森県内5卸団地で組織される青森県流通団地連絡協議会の第27回通常総会が11月14日(木)、青森グランドホテルで開催された。

県内各地の卸団地から13名が出席し行われた総会では、出戸端会長が議長に選出され、審議の結果、すべて原案どおり承認された。

また、任期満了に伴う役員改選では、新たに会長に当組合の元木理事長が、副会長には(協)八戸総合卸センターの橋本理事長が選任された。



インフルエンザ集団予防接種

業務報告

…主要事項…

- 11月
- 6日▽安協問屋町支部交通診断
- 7日▽第3回三役会

- ▽社会保険実務研修会
- 8日▽問屋町ハロウィンパーティー
- ▽(協)山形流通団地創立40周年記念式典・祝賀会
- 9日▽青森公立大学フィロドスタディ
- 11日▽東北卸売業団地連絡協議会幹事会
- 12日▽県経営者協会理事・常任幹事合同会議
- 14日▽インフルエンザ集団予防接種(1日目)
- ▽津軽海峡ブランド博実行委員会
- ▽北日本流通VAN(株)第2回取締役会
- ▽青森県流通団地連絡協議会通常総会
- 15日▽金融審査会
- ▽全国卸売業団地協同組合

- 連合会東北ブロック会議
- ▽問屋町経営同友会忘年会
- 17日▽第4回緑のボランティア隊
- ▽大星神社新嘗祭
- 19日▽第4回環境対策委員会
- ▽第3回卸売業団地機能向上支援事業特別委員会
- 21日▽インフルエンザ集団予防接種(2日目)
- ▽(株)青森共同計算センター定例取締役会
- ▽青森公立大学産学連携協議会
- 22日▽津軽海峡ブランド博
- 25日▽第7回理事会
- ▽青森問屋町配送(株)第2回取締役会
- ▽問屋町支店長・所長連絡会北斗七星巡り

- 28日▽国内経済視察会
- …問屋町ビジネススクール…
- 5日▽これから学ぶ会計・経理試算表編(1日目)
- 7日▽これから学ぶ会計・経理試算表編(2日目)
- 12日▽売り込まない販売手法研修(1日目)
- 14日▽売り込まない販売手法研修(2日目)
- 19日▽給与・税金の基礎の基礎法律編(1日目)
- 21日▽給与・税金の基礎の基礎法律編(2日目)
- 26日▽営業スキル研修交渉術編(1日目)
- 28日▽営業スキル研修交渉術編(2日目)

忘年会で親睦を深める

青森問屋町経営同友会

問屋町の若手経営者及び後継者などで組織される青森問屋町経営同友会の忘年会が、11月15日(金)にダイニング椿で開催された。忘年会では、同会会員であ



青森県流通団地連絡協議会「総会」

る食肉卸業の(株)いしおかの石岡社長による「国産牛について」と題した講演を実施。講演後に行われた懇親会では、「国産牛」「オージビー」「ホルスタイン」のサーロインステーキの食べ比べをして大いに盛り上がり、親睦を深めた。



同友会「忘年会」

業務用食品酒類専門卸

株式会社 小田川

本社 青森市第二問屋町三丁目8番36号
TEL (017) 739-5465 FAX (017) 739-9058

冷凍食品・食肉・食鳥・調味料
海産品・冷凍工ビ・鶏卵・惣菜

(株)丸大冷蔵

本社 青森市問屋町2丁目16の8
TEL (017) 738-4171 (代表)
FAX (017) 738-8399
営業所 八戸・弘前・むつ
盛岡・一関・秋田・大館

交通事故防止対策を協議 問屋町交通安全診断

当組合と青森交通安全協会問屋町支部では、問屋町の事故防止に活かすため、問屋町交通安全診断を11月6日(水)に実施した。

当日は、関係機関である青森警察署、国、県、市の担当官のほか、問屋町支部の会員23名が参加。
診断では、問屋町内で交通事故の発生が予想される箇所をバスで移動しながら視察。その後、問屋町会館に場所を移し、事故防止策などについて意見交換を行った。
毎年事故が発生している青森中央インター前交差点の安全対策について、青森警察署



中央インター前交差点を現地視察

の担当官は「同交差点は市内でも有数の事故多発箇所。警察でも事故防止策を協議中であるが、特効薬が見当たらない。信号方式を変更することもあるが、そのことによる渋滞も予測され、交通の円滑と安全の両面を考慮し、検討していく」と答えた。

団地企業訪問

今回は、今月6日に第二問屋町のレストランフロリア内にテナントとしてオープンしたスイーツショップSOKKA(ソッカ)の関CEOにお話を伺った。



関 浩司 氏
Sokka CEO

年齢を重ねる内に肩の力が抜けてきて、「ああ、そっか」という軽い感じの方が良いかなと思うようになり、この社名にしました」と話す。
SOKKAの店舗運営について伺うと、「お客様とスタッフが楽しく会話し、またあそこに行きたいと思ってもらえるような店にしたいです。また、お客様には隠し事せず、安心・安全な商品を提供していきたい。そのために、ケーキに実際使用している材料を店内で販売しています。これは4店舗中当店独自の試みです。いずれレシピも公開したいですね」と意欲的。

白を基調として洗練された菓子の店内は、ケーキや焼菓子に加え、紅茶やスパイス

なども陳列され、来店者の目を引きつける。対照的に、ケーキは一見シンプル。しかし、材料の良い物をふんだんに使用している。
関CEOは「派手な見た目のケーキには辟易していて、素材だけでも、良い材料を使用したケーキをお客様に楽しんでもらいたいです。おススメは糖質控えめな『低糖質ケーキ』です。糖尿病で甘い物を我慢しきればならない人でもケーキを食べられるようにしたいと考え、作り直しました。砂糖を使用しておらず、ダイエット中の方にもおススメです」とPR。また、今では1kmは泳げるようになりました」と逞しい。

アルミ製リングプルや ペットボトルキャップを回収

組合員の和田ゴム販売(株)では同社の社会的責任(CSR)活動の一環として、アルミ製のリングプルとペットボトルのキャップの回収を始めた。集められたリングプルはボランティア団体に送られ、車イスや歩行補助具などの福祉機器となり、福祉施設に寄贈される。また、キャップは、NPO法人を経て、再商品化事業者に売却され、その収益金で発展途上国にワクチンが送られる仕組みとなっている。リングプルやキャップは同社まで持参するか、大量の場合は個別回収も行っている。また、当組合でも同社の取組



問屋町会館に設置の回収箱

みに賛同し、問屋町会館に回収ボックスを設置しているのをご協力をお願いする。
同CSR活動へのお問い合わせや回収依頼は、和田ゴム販売(株)地域貢献チーム(☎73814395)まで。

豊かな住宅環境と快適な暮らしを追求します

藤村機器株式会社

青森支店 TEL 017-739-4551
FAX 017-739-4145

弘前本社・八戸・大館・仙台支店・秋田営業所

事務機のコンサルタント

青森精機株式会社

本社 ☎030-0131 青森市問屋町二丁目12番23号
TEL (017) 738-2106(代表) FAX (017) 738-0856

十和田営業所 ☎034-0092 十和田市西一番町10番27号
TEL (0176) 22-3253(代表) FAX (0176) 24-1192(代表)

入 学 生 募 集 !

—地域社会を担う即戦力の情報処理技術者を育成します—

職業訓練法人 青森情報処理開発財団

あおもりコンピュータ・カレッジ

青森市荒川字柴田129 TEL 017-739-1311
URL : http://www.acc.ac.jp

未来をネットワークする

JAC www.jacopen.co.jp

ホームページ作成やサーバの運用管理は弊社データセンターをご利用ください。

株式会社 青森共同計算センター

代表取締役社長 今 英 己

〒030-0113 青森市第二問屋町3-10-26
電話 017-771-1111 FAX 017-771-1123

ハロウィンパーティー開催

組合では昨年まで開催していた「問屋町従業員ふれあいパーティー」をパワーアップさせた「問屋町ハロウィンパーティー」を11月8日(金)、午後7時より開催した。ホテル青森の宴会場で行われた同パーティーには組合員企業の従業員やその家族を合わせ173名が参加した。



仮装して交流を楽しむ参加者

問屋町で働く従業員同士が活発に交流することを目的に開催していたふれあいパーティー。ハロウィンパーティーでは、これまでの交流は継続し、さらにパーティーが楽しめるよう参加者が仮装。昨年までは堅い雰囲気もあったが、仮装により会場全体の雰囲気や和やかになり、交流もよりスムーズに進んだ。

パーティーのメインである交流タイムではアトラダムに決められたテーブルに移動し、初対面の他の会社の参加者と名刺交換や自己紹介を行



仮装コンテスト也大盛り上がり

った。初対面の参加者の会話が弾むよう、昨年に引き続き「共通点を探せ」と題したゲームも実施。同テーブル内でお互いの共通点を探し出し、テーブル対抗で共通点の多さを競い合った。ゲーム終了後も共通点をきっかけに会話が弾み、より親交が深まった。さらに、初の試みとして仮装コンテストも開催。エントリーした15名がステージ上で思い思いの形で審査員に自己アピールし、会場は笑いに包まれた。優勝はショッカラー戦闘員(黒)の仮装をした(株)セキ東北の五十嵐雅樹さん。パーティーの最後には恒例の抽選会を開催。液晶テレビや高級ステーキ食比べセット、美容家電にハロウィングッズなど計10点の豪華賞品を用意。番号がコールされるたび、会場内には歓声や悲鳴が響き渡り、大盛り上がり。うちにパーティーは終了した。

パソコンリサイクル回収実験事業スタート

組合では平成25年12月より、組合員企業で不要になったパソコンのリサイクル回収の実験事業を開始した。

現在、パソコンを廃棄する場合は、資源有効利用促進法によりリサイクル処理することが求められており、通常のごみとしては処分できない。また、処分費は有料(1台約3千円)となっており、企業としてもその手続き及び費用が負担となっている。

青森市でインターネット関連事業を営む(株)アクティブワークスでは、障がい者雇用の創出及びパソコンのリサイクル推進、資源の有効活用を目的に、青森県の経営革新計画事業の認定を受け、不要になったパソコンを有料で買い取る事業を今年の8月からスタートさせた。そこで、当組合でも、同社と連携し、パソコンリサイクル回収の実験事業を行うこととした。

問屋町に新たにスイーツショップがオープン

12月6日(金)、問屋町にスイーツショップ「SOKKA A(ソッカ)」がオープンした。

同店は、青森産業会館向かいに位置するレストランフロア内にテナントとして出店。白を基調とした明るく店内にはショーケースに並べられた色とりどりのケーキに、マドレーヌやフィナンシェなどの焼き菓子も豊富に取り揃え、自分へのご褒美はもちろん、大切な人への贈り物にも最適。

営業時間は午前10時30分～午後6時30分。定休日は毎週火曜日となっている。

お問い合わせは、SOKKA A (☎763-5264) まで。



SOKKAの店内



障がい者によるパソコン解体作業

リサイクル対象品は、1台につき100円から200円で買い取りし、リサイクル処理を行う。パソコンのハードディスク内に保存されているデータは、電磁的消去並びに物理的破壊するため、安心して利用できる仕組みになっている。

当実験事業は、平成26年5月まで実施し、その回収状況及び実績等を勘案して来年度の本格稼働を目指す。

当事業に関するお問い合わせは、卸センター業務部(☎738-4711) まで。

編集後記

津軽海峡ブランド博が開催されました。この事業は青森産業会館が中心となり県・市・会議所・商工会に当卸センターが協力して開催したものです。この企画は、平成27年に予定されている北海道新幹線開業を見据え、津軽海峡にまたがる上磯「津軽半島カミソ」北海道南カミソの食産業を中心としたブランドの確立を支援するためにされたものです。宣伝の遅れなどから当初心配した入場者も、3日で約2万人になり、来年はかなり期待できそうです。今回驚いたのは、イベントの来場理由です。モニタリング調査で、テレビ・新聞に続いて「ツイッター」が22%で3番目だったことです。時代を感じました。反省点もありますが、実質半年くらいの準備期間で津軽と道南の商工会の協力を取り付け、一四の企業の出展にこぎ着けたことは、成功と評価してよいと思います。なおかつ道南の出展者から来年の出展希望があったことはうれしいことでした。

▼今回の国内経済視察会で、福岡市の梱包・輸送会社でのトランスパック(株)を視察しました。同社の「5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)」と「利益管理」を結びつけ収益改善に取り組み事例は大変興味深いものでした。この「5S」は組織の仕組みづくりとするシンプルな経営改善方法は、福岡市在住の経営コンサルタント・戸敷進一氏の提唱する理論ですが、次に詳細を報告します。(藤本)

ブライダルコスチュームフェア開催中!!

Scena Duno
presented by KUBA DUA
SD-0381 IVORY

まきのパティオ

ご自宅を警備する、進化型ホームセキュリティ

HOME ALSOK Premium

【新機能】
携帯電話等を利用した警備操作
バックアップ回線を標準装備
屋外監視が可能(オプション)他

ALSOK 青森総合警備保障株式会社
☎0120-711-806 http://www.a-alsok.jp/